

ベトナムフィールドスタディ
2020

報告書



三重大学ベトナムフィールドスタディ 2020
参加者一同

2021年3月

目次

はじめに	2
I. 概要	3
1. 実施概要	3
2. 全体日程	4
3. 参加者氏名とホーチミン市師範大学学生とのグループ	5
4. 交流先基本情報	5
II. 事前準備	6
III. 日本文化紹介	13
IV. 最終発表	19
1. 教育グループ	19
2. 農業グループ	23
V. 三重大学とホーチミン市師範大学の学生との交流の記録	29
VI. 全体の報告(感想)	33
田村 彩英 (人文学部文化学科 2 年)	33
小樋 健汰 (人文学部法律経済学科2年)	34
上嶋 美琴 (教育学部学校教育コース 1 年)	36
住田 大聖 (生物資源学部共生環境学科 2 年)	38
交流の様子	39
おわりに	41

はじめに

新型コロナウイルスの収束が見えない中、微かな希望でベトナムフィールドスタディの準備を始めましたが、昨年度に続き現地の訪問は叶いませんでした。しかしながら、現地に行けないからといって中止にしては、ベトナムをはじめ、これからの海外との交流が途絶えてしまいます。たとえオンラインであったとしても、いつか実際に行き来できるようになった時に向けて継続する必要があると思いました。

また、これまで大学の国際化の掛け声とともに学生の海外留学・研修が推奨されてきましたが、国内での国際共修も注目を集めています。特に誰もが海外渡航ができない現状では、オンラインでの国際共修に目が向けられると言っていいでしょう。

こうした背景を踏まえ、このベトナムフィールドスタディを3月8日から3月13日までの5日間、オンラインで行うことにしました。そもそも渡航を前提に事前勉強会を行っていたので、渡航中止を決断することは辛く、また学生もオンラインでの参加に悩み、5日間をどうやってオンラインだけで交流すればいいのか不安だったと思います。

本学でも他大学でもコロナ禍での海外とのオンライン交流は様々な実践が行われていますが、5日間の、それもフィールド調査をオンラインで一緒に行うというプログラムは手探りの挑戦でした。今回参加してくれた4名の学生は、実際にベトナムに行くことを強く望んでいましたが、オンラインであっても勇気をもって参加を決めてくれました。

このフィールドスタディでは日本人学生とベトナムの学生がグループになり、テーマを考え、ともに話し合い、調査し、とりまとめ、発表するようにしています。その中で共感したり悩んだり、アイデアを出し合ったりして、共に学び合うことを目指しています。

それがオンラインになったとしても、学生たちは意見を出し合い、知恵を絞って話し合いをしっかりと行っていました。もちろん言語の壁があり、自分たちの意見や主張を伝えることの難しさを実感していたようです。更にインターネット環境という壁もあり、うまく接続が繋がらなかったり、コミュニケーションに時差が生じたりしました。そうした課題に耐えながら、工夫してコミュニケーションを進める中で、お互いに共感できるものを見つけ出してくれたようです。

最終発表では日本とベトナムとの比較を行うことにしました。その中でお互いに何を学び合えるのか考察してくれました。限られた時間や環境の中での成果としては十分に評価できるでしょう。この報告書は、こうした学生たちの真摯に取り組んだ感想が率直に述べられています。学生たちが何を学び取ったのか読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、プログラムに応じてくださったホーチミン市師範大学の日本語学科長の Chi 先生、Nga 先生や学生の皆さん、また、プログラムの実施に向けて支援をくださった本学国際交流センター長（当時）の吉松先生、現センター長の金子先生、国際交流チームの方々、その他ご協力くださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

（奥田久春）

I. 概要

1. 実施要項

実施期間:2021年3月8日(月)~3月13日(金) 5日間

交流先:ホーチミン市師範大学

担当教員:奥田 久春 教養教育院 特任講師

松岡 知津子 地域人材教育開発機構 兼国際交流センター 准教授

ホーチミン市師範大学: Cao Le Dung Chi 日本語学科長

Le Thi Hong Nga 日本語学科

形式:Zoomによるオンライン形式

プログラムの目的:

協定大学であるホーチミン市師範大学での授業や学生交流、フィールドスタディ、ホームステイの経験を通して、グローバルな視点や国際感覚を持ちながら主体的に行動し、参加メンバーと協力しながら活動を進め、また異文化にあって積極的にコミュニケーションを図ろうとするグローバル人材に求められる能力・資質を育成する。

プログラムの概要:

(1) ホーチミン市師範大学生と日本語とベトナム語、社会についての学び合い

日本語とベトナム語の挨拶、ことわざ、大学生のアルバイト

(2) フィールド調査の実施

それぞれの問題関心に基づいて、特定のテーマを設定し学生主体で問いを立て、師範大学の学生とグループになって、検討、調査を計画して調査を実施する。最終日にグループごとの発表会を開催。

(3) 学生との異文化交流

師範大の学生とオンラインでそれぞれの生活や文化を紹介しあうことで異文化交流を図る。

参加費用:なし

募集方法:2020年10月12日にオンラインにて募集説明会を実施。全学の学生に公募。参加動機とベトナムについて関心があることを記述して応募。募集説明会には約30名が参加した。

2. 全体日程

日程・時間 (ベトナム時間)	内容
1日目 3月8日(月) 14:00~14:30 (12:00~12:30)	開講式 適宜各グループ、時間を決めてフィールド調査準備(グループごと)
2日目 3月9日(火) 14:00~14:30 (12:00~12:30) 15:00~17:00 (13:00~15:00)	日本語・ベトナム語の教え合い ① 各グループ、時間を決めてフィールド調査準備(グループごと)
3日目 3月10日(水) 14:00~14:30 (12:00~12:30) 15:00~17:00 (13:00~15:00)	日本語・ベトナム語の教え合い② 各グループ、時間を決めてフィールド調査準備(グループごと)
4日目 3月11日(木) 14:00~14:30 (12:00~12:30) 15:00~17:00 (13:00~15:00)	日本語・ベトナム語の教え合い③ 各グループ時間を決めてフィールド調査・発表準備(グループごと)
5日目 3月12日(金) 11:00~13:30 (9:00~11:30)	日本文化紹介・最終発表 各グループ 5分間の日本文化紹介 最終発表(15分+10分質疑応答) 修了式

3. 参加者氏名、ホーチミン市師範大学学生とのグループ

	氏名	学部 学科・コース	学年
1	田村 彩英	人文学部 文化学科	2年
2	小樋 健汰	人文学部 法律経済学科	2年
3	上嶋 美琴	教育学部 学校教育コース	1年
4	住田 大聖	生物資源学部 共生環境学科	2年

※上記に加えて、1名が開始前に辞退 学部順。学年はベトナムフィールドスタディ参加当時のもの

教育グループ

農業グループ

上嶋美琴	田村彩英
小樋健汰	住田大聖
Trương Thị Minh Thư (ミン・ツー)	Triệu Gia Huy (ザー・フィー)
Bà Ngọc Hoàng Xuyên (ホアン・スエン)	Lê Thị Quế Anh (クェー・アン)
Phạm Thị Mỹ Linh (ミー・リン)	Ngọc Thị Diễm (ガク・ティ・ヤエン)
Huỳnh Hữu Thắng (フイン・フュ・タン)	Đỗ Nguyễn Phương Trinh (フォン・チン)
	Đoàn Thanh Phượng (タン・フォン)

4. 交流先の基本情報 (2021年4月現在)

ホーチミン市師範大学 Trường Đại học Sư Phạm TP. Hồ Chí Minh
Ho Chi Minh City University of Education

- 1976年開学
- 23学科 33コース
- 学生数:約11,000名 (留学生:約100名)

住所:280 An Dương Vương, Phường 4, Quận 5, TP.HCM

URL:<https://hcmue.edu.vn/>

Ⅱ. 事前準備

ベトナムフィールドスタディでは、メンバー決定からプログラム開始までに6回の勉強会を開き、準備を進めてきました。勉強会の内容は以下の通りです。

- 第1回勉強会 11月25日(水) 12:10~12:50

参加者自己紹介、概要説明とプログラムの確認、日程の希望確認、日本文化紹介のテーマ決定についての説明、渡航の場合のJASSO奨学金についての説明、海外渡航届の説明、事前勉強会の日程調整を行った。また、事前学習として「歴史」(小樋さん、田村さん)、「農業・気候」(住田さん)、「生活風習・食文化」(上嶋さん、太田さん)が調べてくることとした。また、各自の興味・関心に基づいたフィールド調査のテーマとして大まかに「土壌、農業、植物」(住田さん)、「初等教育、大学」(小樋さん、田村さん、上嶋さん)を挙げ、調査内容を検討していくこととした。

- 第2回勉強会 12月7日(月) 12:10~12:50

ベトナム人学生とのコミュニケーションで日本語がうまく通じない場合の注意点について松岡准教授より講義を行った。ベトナム語学習第1回目を行った。今回は工学部2年生のNGUYEN LE DUY (グエン・レ・ユイ)さんに講師をお願いし、自己紹介、「よろしくお願ひします」といった表現を学んだ。

- 第3回勉強会 12月21日(月) 12:10~12:50

ベトナム語学習第2回目を行った。今回は工学研究科博士課程前期1年生のPHAM HUU HOAN (ファム・ヒュー・ホアン)さんに講師をお願いし、6つの声調と発音、数字やお金の数え方について学んだ。日本文化紹介についてテーマを出し合った。事前学習として田村さん、小樋さんが「ベトナムの歴史」について調べた内容を報告した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大が終息しておらず、渡航が困難であることを伝えた。

- 第4回勉強会 1月7日(木) 12:10~12:50

ベトナム語学習第3回目を行った。今回は工学部3年生のHOANG TAN DAT (ホアン・タン・ダット)さんに講師をお願いし、今回は渡航しないが、将来の訪越時に役立つため、タクシーの乗り方、道を尋ねるための方角の表現、店員さんの呼び方、レストランでの注文方法、ベトナムの有名な食べ物について学んだ。また事前学習として住田さんが「農業・気候」について調べた内容を報告した。また、今回のベトナムフィールドスタディがオンラインで実施することを伝え、オンラインでも参加を希望するか確認した。

- 第5回勉強会 1月18日(月) 12:10~12:50

事前学習として上嶋さん、太田さんが「生活風習・食文化」について調べた内容を報告した。開講式、閉講式の司会、出し物の役割を決めた。

- 第6回勉強会 2月10日(水) 12:10~12:50

オンラインでのプログラム(案)の内容や日程を伝え、質問に応じた。オンラインで具体的に終日、何を話し合えばいいのか、沈黙の時間はどのように対応すればいいのか、など不安や質問が出された。

- 第7回勉強会 2月17日(水) 12:10~12:50

ホーチミン市師範大学の概要やこれまでのVFSの報告書から、どのような学生とどのような交流が考えられるか、フィールド調査についての話し合いの進め方について説明、相談に応じた。参加者一名だったためメールでも配信した。

- 第8回勉強会 3月3日(水) 12:10~12:50

ホーチミン市師範大学と調整した内容の日程について伝え、3月8日からの開始に向けて準備の方法など相談があった。

ベトナムの歴史

人文学部文化学科 田村彩英

1

ベトナムについて

ベトナム社会主義共和国

- ・首都 ハノイ
- ・人口 約9467万人(2018年)
- ・言語 ベトナム語



外務省ホームページより

ベトナムの国旗と地図

2

20世紀のベトナム史



3

WW I 後のベトナム

フランスはベトナムに投資を行った

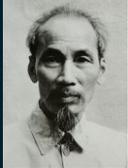
- 農業・工業
 - ・ゴム・プランテーション
 - ・石炭
- インフラ
 - ・鉄道を通す

4

WW I 後のベトナム

孫文の三民主義の影響でベトナムでも民主革命の声が。
ロシア革命の影響で社会主義思想も広まった。

グエン・アイ・クオック(ホー・チ・ミン)は、
フランス共産党の創設に参加
1930年 **ベトナム共産党**を結成



5

戦時中のベトナム

フランスの支配+日本の侵略
→二重支配されることに...

ホー・チ・ミンは「**ベトナム独立同盟(ベトミン)**」を結成
フランス・日本に抵抗した

6

インドシナ戦争

1945年9月2日 **ベトナム独立宣言**
→フランスは認めず、再び植民地化を行おうとしたため、
ベトミンは北部の山岳地帯に拠点を作り、フランス軍と戦った。

ディエンビエンフーの戦いの後、フランスはベトナムから撤退
1954年 **ジュネーヴ協定**
→北緯17度線で南北分断。ベトナムは分断国家に。

7

ベトナム戦争

1962年、南ベトナム政府がクーデターで倒れた
→アメリカが兵士をたくさん送ってきた。

1965年2月 **北爆開始**
→アメリカ側にも大きな損失があったため、
米で**反戦運動**が起こる。



8

ベトナム戦争

1969年 南ベトナム臨時革命政府が成立
北爆は1968年に一旦停止するが、72年に再開。
→国際的非難が高まる

1973年 パリ和平協定調印

9

ベトナム戦争

被害

戦死傷者 約300万人 多数の難民も

アメリカ軍は新型兵器を多く使い、ベトナムの国土に2000
万個以上の穴をあけた

不発弾や地雷の被害も後を絶たない

2012年に米・ベトナム政府が共同で枯葉剤の汚染除去作業
を開始

10

独立後のベトナム

1969年 ホーチミン死去

→ホーチミンは南北統一をゆっくり実施すると言ったが、
すぐに統一が決定

1976年 ベトナム社会主義共和国が成立

11

参考文献

- ・外務省ホームページ ベトナム社会主義共和国
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>)
- ・『ベトナムの歴史』ファン・ゴク・リエン監修 明石書店 2008年
- ・『これならわかるベトナムの歴史Q&A』三橋広夫著 大月書店 2005年
- ・『最新世界史図説タバストリー 十五訂版』川北稔監修 帝国書院 2017年

12

ありがとうございました

13

ベトナムの歴史

小樋 健汰

1

ベトナムの概要

- 正式名称：ベトナム社会主義共和国
(Socialist Republic of Viet Nam)
- 面積：33万平方キロメートル（日本の約0.88倍）
- 人口：約9467万人（2018年, 越統計総局）
- 首都：ハノイ
- 言語：ベトナム語
- 気候：高温多雨の熱帯モンスーン気候

2

独立宣言まで

- 938年 中国からの独立
→様々な王朝の成立
- 1884年 フランスの保護国となる
(フランス領インドシナ)
- 1940年 日本軍の進駐
(9月北部仏印進駐、1941年南部仏印進駐)
- 1945年 「ベトナム民主共和国」独立宣言
(ベトナム共産党ホーチミン主席)

3

南北統一まで

- 1946年 インドシナ戦争
- 1954年 南北分離（ジュネーブ休戦協定）
- 1955年 ベトナム戦争（～75年）
→社会主義陣営と資本主義陣営の代理戦争？
- 1965年 アメリカ軍の北爆開始
- 1973年 パリ和平協定、日本との外交関係樹立
- 1976年 南北統一
(ベトナム社会主義共和国に改称)

4

現在まで

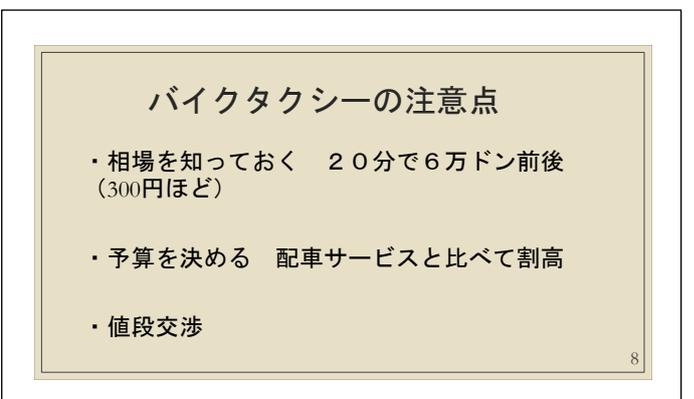
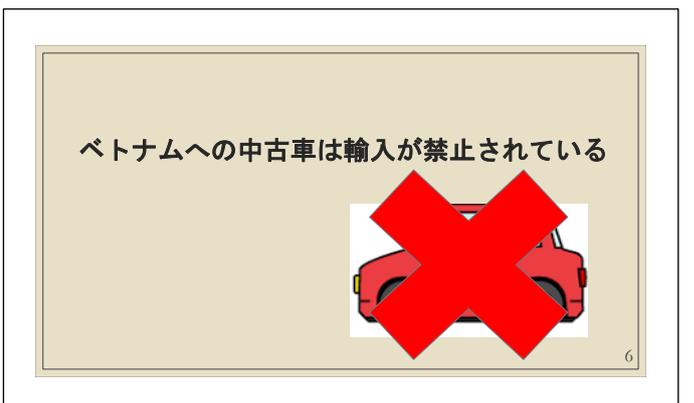
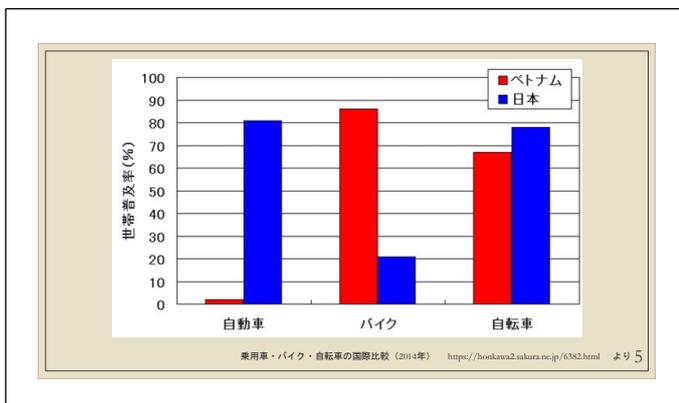
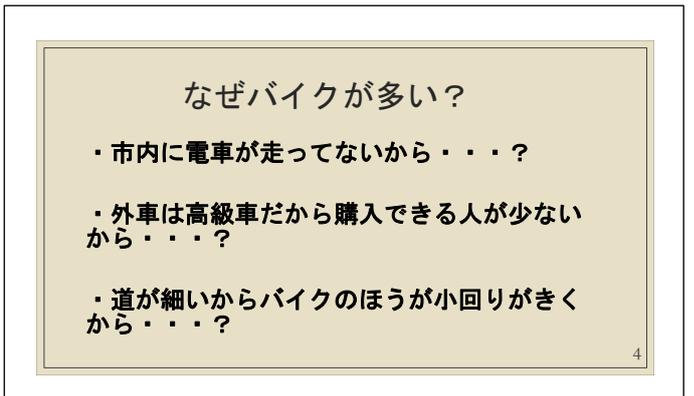
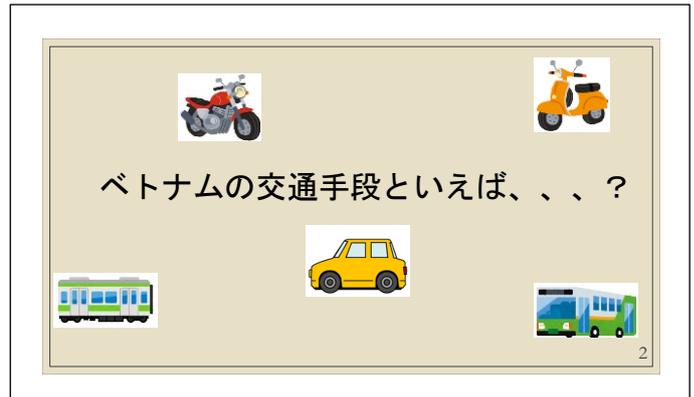
- 1979年 中越戦争
- 1986年 ドイモイ（刷新）政策
- 1995年 アメリカとの国交正常化
ASEAN正式加盟
- 2008年 国連安保理非常任理事国（～2009年）
- 2014年 最新版の憲法施行
- 2017年 APEC議長

5

ベトナム語の成立

- 中国の支配以前
→ベトナム独自の言語有 文字無し
- 中国の支配下
→公式文書（中国の漢字） 会話（ベトナム語）
- 中国からの独立後
→アンナム語（安南語）の成立
- 17世紀初頭

6



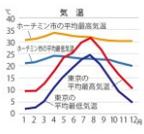
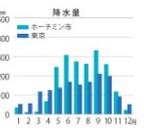
ベトナムの気候、農作物について

住田大聖

1

ベトナムの気候

- ベトナムの気候はサバナ気候
- サバナ気候の特徴は**高温多雨**
- ホーチミン市の最高気温の平均は30°C程度、最低気温の平均は20°C程度。
- サバナ気候には**雨季と乾季がある**

2

- サバナ気候の土地でよく作られる作物、
綿花、**コーヒー**、**稲作**
- サバナ気候の主な土壌
サバナ気候の主な土壌はラトソルという痩せた赤色の土壌がみられる。

ベトナムの農業の重要性

ベトナムの農林水産のGDPの占める割合は**14.57%** (外務省HPより)
GDP全体は約2,372億米ドル計算すると**約345億米ドル**

日本の農林水産のGDPの占める割合は**1.24%** (農林水産省HPより)
GDP全体は5471225億円、うち**農林水産は67808億円**

3

主要な貿易品

繊維、携帯、**水産物**、コンピューター電子製品など (日本貿易振興機構HPより)

- ベトナムの代表的な農産物 (輸出量)
米352万t、コーヒー156万t: **輸出量世界第2位**
ブラックペッパー13万4000t、カシューナッツ46万t: **輸出量世界第1位**
- ベトナムの代表的な農産物 (生産量)
米4500t、コーヒー183万t、ブラックペッパー266万4000t、
カシューナッツ266万3885t

4

ベトナムの農業の課題

低品質・低収穫量である。農業生産が現在の**消費ニーズを満たしていない**。
付加価値が高い農産物が生産できていない。

ラトソルの特長

鉄やアルミニウムの水酸化物を主成分とする土壌。
雨季に有機物が分解されることでケイ酸や塩基類が流れてしまい、
残った鉄やアルミニウムなどの金属元素が表面に集積される。

5

参考文献

[ベトナム基礎データ | 外務省 \(mofa.go.jp\)](http://mofa.go.jp)

[ベトナム農業：現状と課題・今後のポテンシャル | ONE-VALUE株式会社](#)

[ベトナムの気候と天気 | 地球の歩き方 \(arukikata.co.jp\)](http://arukikata.co.jp)

[ケッペンの気候区分を覚える！代表的な12個の気候区分を把握しよう | キャラリティ \(caplarity.com\)](http://caplarity.com)

[サバナ気候\(Aw\)の特徴とは？具体的な国名もたった1つのポイントで攻略可能！ | 受験地理B短期マスター塾 \(juken-geography.com\)](http://juken-geography.com)

6

Ⅲ. 日本文化紹介

日本のだし(住田大聖)



「和食」と出汁

和食は日本の伝統の食文化である。

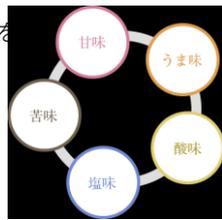
この和食の基本にあるのは出汁であり、出汁は日本人の日々の食生活において欠かせないものです。かつお節や昆布からうま味を抽出した出汁は素材のおいしさを引き立ててくれます。

2

出汁

昆布や鰹節などの食品を煮て出した汁のこと

5つの基本味の1つであるうま味を食品から抽出している。



主に使われる食品

昆布、野菜、鰹節、肉、干しシイタケ、煮干し



うま味

うま味を作るものとしてグルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸などのアミノ酸がある。

食品の熟成とうま味成分には深い関係があります。トマトのような野菜や肉類、魚類などは時間の経過によってたんぱく質が分解されてアミノ酸の一つであるグルタミン酸が増えます。

5

世界で流行した出汁

かつお出汁には血流を改善して肩こりや眼精疲労などの疲労回復に効果が期待できる。

昆布出汁には過剰な脂肪の摂取や血糖値の急激な上昇を抑えてくれ、脂肪をたまりにくくする効果が期待できる。



6

飲む出汁



7

参考文献

[和食の原点 だし=うま味 | 鰹節屋のだしのお話 | 知る・楽しむ | だし・かつお節のヤマキ \(yamaki.co.jp\)](#)

[うま味の成分 | 日本うま味調味料協会 \(umamikyo.gr.jp\)](#)

[世界で流行中！出汁\(だし\)の健康効果がすごい！ | メガロスブローカーラダに効くトビックスー \(megalos.co.jp\)](#)

[“だし”人気広がる…米国家庭にも日本の味 | 日テレNEWS24](#)

[出汁の出る野菜とは？どれがおすすめ？【栄養士がわかりやすく解説】 | にほん美人をつくるブログ \(kugizukefood.com\)](#)

8

日本の年中行事
三重大学 1年 上嶋美琴

1

日本の四季

春 秋 夏 冬

2

四季の区切り

気象学的な区別	暦による区別
「春」・・・3月、4月、5月	「春」・・・2月4日ごろ(立春)～5月5日ごろまで
「夏」・・・6月、7月、8月	「夏」・・・5月6日ごろ(立夏)～8月7日ごろまで
「秋」・・・9月、10月、11月	「秋」・・・8月8日ごろ(立秋)～11月7日ごろまで
「冬」・・・12月、1月、2月	「冬」・・・11月8日ごろ(立冬)～2月3日ごろまで

3



春

4



3月3日
ひな祭り

5



4月
お花見

6



5月5日
端午の節句

7



夏

8



にほんご ほうげん
日本語の方言
 三重大学 人文学部法律経済学科2年
 小樋健汰（こひげんた）

1

方言（ほうげん）とは？

えいご dialect
英語

べトナムご phương ngữ
ベトナム語

とくてい ちいき もち げんご
 特定の地域ので用いられる言語
ひょうじゆんご たんご
 標準語にはない単語

2

にほん ほうげん
日本には方言がいくつある？

東条操氏 1953年
 ⇨日本の方言は16種類
 北海道方言（ほっかいどう）
 東北方言（とうほく）
 関東方言（かんとう）
 東海・東山方言（とうかい・ひがしやま）
 近畿方言（きんき）
 四国方言（しこく）
 など

3

あいちけん しゅうへん なごや ほうげん
愛知県周辺（名古屋など）の方言①

つくえ
 机を（ ）
 ①はこぶ
 ②もっていく
 ③つる



4

愛知県周辺（名古屋など）の方言②

昼（ ）に遊ぶ。
あそ
 ①放課（ひるほうか）
 ②休憩（ひるきゅうけい）
 ③休み（ひるやすみ）

5

愛知県周辺（名古屋など）の方言②

時間割	教科
1	国語 10分（ ）
2	算数 10分（ ）
3	英語 10分（ ）
4	体育 昼（ ）
5	理科 10分（ ）
6	道徳 業後

6

三重弁（三重で主に使われる）①

かわいい語尾
 ⇨この問題難しくくて（ ）
 ①できたん
 ②できもん
 ③できやん



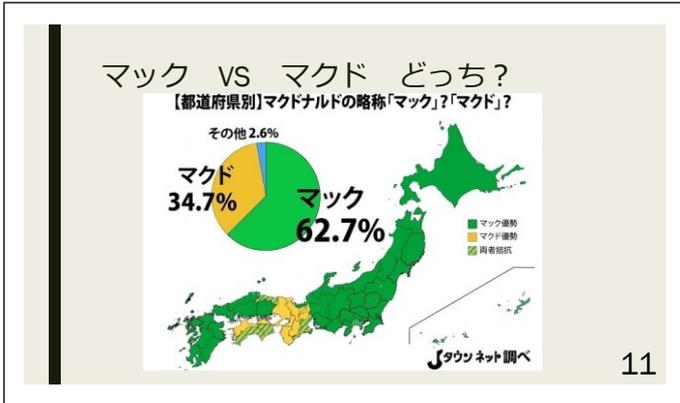
7

三重弁（三重で主に使われる）②

かわいい語尾
 この問題難しくくてできやん（ ）。
 ①かん
 ②たん
 ③やん




8



わがし
和菓子
三重大学人文学部 田村彩英

1

和菓子とは

- 日本の伝統的なお菓子
- 「どら焼き」「団子」「まんじゅう」が有名
- 「あんこ」を使ったお菓子が多い
- お祝い事に食べるものもある
- 季節に合わせたデザインや名前がある
- 甘すぎない優しい味のものが多い



2

今回紹介する和菓子

- 季節の和菓子 桜餅
- 行事の和菓子 柏餅
- 綺麗な和菓子 練りきり
- 名前の変わる和菓子 おはぎ(ぼたもち)

3

季節の和菓子 桜餅

もち米でできた粉から皮を作り、あんこを包んだお菓子。葉は桜の葉の塩漬。葉っぱも食べられる
桜の香りがする桜色のお菓子
桜が咲く3~4月頃によく食べられる



4

行事の和菓子 柏餅

「端午の節句」という、男の子の成長を願う日に食べる
餅はお祭りの日に食べることが多く、縁起のいいお餅を柏の葉っぱでくるんだお菓子
柏の葉は、新しい葉ができてから古い葉を落とすため、子孫繁栄の意味が込められている



5

綺麗な和菓子 練りきり

つなぎ(手などまとまりをよくするためのもの)を混ぜた白あんに色を付け、綺麗な形に整えたもの
春夏秋冬の花や果物、生き物を形作ることが多い



6

季節で名前が変わるお菓子
おはぎ(ぼたもち)

春はぼたもち(牡丹餅)
秋はおはぎと呼ぶ
どちらも花の「牡丹」と「萩」から名付けられている



7

和菓子は・・・

- さまざまな見た目のものがある
- 日本の季節に合わせた見た目・名前のものが多い

日本の美しさが表現された食べ物だと思います！是非食べてみて！



8

ベトナムの教育の特徴①

- ・休憩するときあるいは最初の授業を始める前に、学生は校庭で集まって、体操する。
- ・学生は5分ぐらい一緒に音楽リズムに合わせて体操する。
- ・学校によって、音楽が違う。



9

ベトナムの教育の特徴②

ベトナムの学校の国旗敬礼式

- 毎週の月曜
- ・ 午前：最初の授業
 - ・ 午後：最後の授業



午前の国旗敬礼式

7時：学生と教師が校庭に集まってきちんと並ぶ。

7時15分：国旗敬礼式が始まる。

10分後：学生が校長、教師から学習や道徳や成績などについて聞く。

7時45分：クラスに戻る。

11

敬礼式の意義

- ・ 愛国心を高める。
- ・ 祖国の独立と自由のために貢献し、犠牲になった人々に感謝する。

12

ベトナムの教育の特徴③

ホーチミンヤングパイオニア組織

組織のシンボル



13

ホーチミンヤングパイオニア組織とは？

- ・ ベトナムの政治組織の一つ
- ・ 三年生になると、誰でも参加する



14

参加してから、学校で勉強している間、赤い布を首につけなければならない



15

ベトナムの教育の特徴④

入学

どうしてベトナムの入学式は毎年9月5日に行われているのでしょうか？



16



ホーチミン
大統領

1945年に独立宣言書
を読んで、ベトナム民
主共和国の誕生を告
げる



日本の 教育の特徴

1. 入学式は4月
2. 家庭訪問
3. 習い事・部活動

日本の学校は4月に始まる！

4月 入学式・始業式

←桜の咲くころに行われる



〈理由〉

国の会計年度が4月はじまりだから

←国や公共機関の予算に合わせる



日本だけ！？一家庭訪問（小学校）

毎年GW前後に行われる伝統的な事業

←法的根拠はない

〈目的〉

- ・生徒の家での生活
- ・生徒の家庭の事情を見る



日本の学生の
朝や放課後の時間は何してる。。。？



習いごと
部活動

「習いごと」

第1位：水泳



第6位：そろばん

第2位：学習塾

第7位：書道



第3位：通信教育

第8位：サッカー

第4位：音楽教室

第9位：武道（剣道・空手
など）

第5位：英語・英会話



第10位：その他のスポーツ

「部活動」とは？

部活動は「教育課程外」の活動であり、
法令上、学校が設置、運営することは義務とさ
れていない。

しかし、生徒の多様な学びの場として教育的意
義が大きいことから学校の教育活動の一環とし
て計画、実施されている。

例えば。。



運動部

サッカー部 水泳部 卓球部 テニス部 バスケットボール部
バドミントン部 バレーボール部 野球部 陸上部 剣道部 柔道部

文化部

吹奏楽部 美術部 演劇部 合唱部



25



26



より良い教育のためには？

27

KK1

日本の教育をより良く

- ・政治に触れる機会を増やす
←政治に関心を持つ学生が多くなる
- ・お昼寝タイムがあったらいいんじゃないか
←疲れている時に勉強しても意味ない

28

KK3

ベトナムの教育をより良く

- ・学校では勉強に集中しすぎている
←部活動とかクラブ活動
- ・授業と授業の間に休憩があったほうがいい
←みんながもっと集中できる

29

まとめ

- ・比較することによって自分の国の教育について改めて考えることができた。
- ・教育は勉強することだけではなく、勉強の楽しさを伝える場でもある。
- ・教育は人に大きな影響を与える
←政治など多くのことに関わる機会を与えることも重要

30



日越両国の農業と食事



1

チームのメンバー

1. 田村彩英 - 人文学部 文化学科
2. 住田大聖 - 生物資源学部 共生環境学科
3. Triệu Gia Huy (ザー・フィー) - 日本語学部
4. Lê Thị Quế Anh (クェー・アン) - 日本語学部
5. Ngạc Thị Diễm (ガク・ティ・ヤエン) - 日本語学部
6. Đỗ Nguyễn Phương Trinh (フォン・チン) - 日本語学部
7. Đoàn Thanh Phương (タン・フォン) - 日本語学部

2

目次

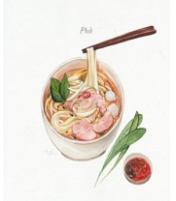
1. 日本とベトナムのお米から作るもの
2. 日本とベトナムの調味料
3. 調味料の材料から日本とベトナムの作物の違いを知る
4. 結論

3

1. 日本とベトナムのお米から作るもの

ベトナム :
フォー:

- フォーの主な材料は、ビーフンとスープで、牛肉または鶏肉を薄くスライスしたものだ。
- 麺はすべて米でんぷんから作られている。



4

バンチョン、バンテト

- 祖先に感謝を表すためのベトナムの伝統的な料理だと言われている。
- バンチョンとバンテトを料理する材料はもち米と青豆と豚肉だ。



5

日本

餅

- 伝統的にもち米をグラニュー糖で炊いたものである。
- 餅は正月に食べるのが一般的ですが、次第に人気が大きて一年中食べられるようになってきている。





6

お酒 (日本酒)

- 日本酒は、米と米麹と水でアルコール発酵をさせたものだ。
- 日本酒は、精米、洗米、浸漬、蒸米、麴造り、酒母づくり、もろみづくり、上槽、濾過、火入れ、加水の順で作られる。



7

2. 日本とベトナムの調味料

ベトナムの醤油

呼び方:

- 南部のホーチミンでは“ヌック・トゥーン”
- 北部のハノイでは“シーザウ”

成分:
大豆、穀物、水、塩





8

2. 日本とベトナムの調味料

ベトナムの醤油

味：

種類によって独特の香りがあったり、甘かったりする。

使い方：

- ・炒め物や煮物の味付けに使用する。
- ・唐辛子のみじん切りを加えて、ゆで野菜の付けダレとして使う。



9

サテトム

成分：

エビのペースト、ニンニク、レモングラスだ。

味：

辛い、甘い、エビの味がある。

使い方：

- ・ご飯やフォーやインスタントラーメンに少し垂らす。
- ・肉や野菜と一緒に炒める。
- ・ライスペーパーと一緒に食べる。



10

日本の調味料



11

醤油



特徴：

- ・醤油の8割が濃口しょうゆで、赤っぽい茶色をしている。
- ・種類：たまり醤油、白い醤油、再仕込み醤油など。

12

醤油

味：

塩辛い。

一緒に食べる料理：

煮物、炒め物の味付け、せんべい。



13

みりん

特徴：

- ・アルコール分があり、お酒の一種である。
- ・甘い味で薄い黄色の液体。

一緒に食べる料理：

煮物やうどんのつゆを作るのに用いる。



甘い

14

日本のお米の種類・作り方

15

日本で作られているお米はほとんどがジャポニカ米となっている。日本型、短粒種とも呼ばれ、形が丸みを帯びている。

また日本以外でも朝鮮半島、中国北部、台湾、オーストラリアやエジプトの一部で栽培されている。



16

お米の作り方

お米は種もみから収穫まで**一年をかけて行われる。**

大きく分けて田んぼの準備・苗づくり、田植え・管理、収穫・乾燥と調整の3つからなる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作業		土作り		種まき・田んぼ準備	田んぼ準備							
水管理					水管理							

17

田んぼの準備・苗づくり

田んぼの準備は耕起 → 畦塗り → 施肥 → 入水 → 代掻きの順で行われる。

耕起、畦塗りで田んぼを耕して、形を整える

施肥では土に肥料を加え、入水と代かきで田んぼに水を張り、攪拌する。



18

田植え・管理

1坪あたり50~70株、植え付けの深さは3cm前後にする。

管理には、水管理、追肥、雑草処理、病害虫処理などがある。



19

稲刈り・乾燥

稲を刈り取った後、穂からもみを外し、乾燥させる。もみ殻を取り除き玄米にする。

穂からもみを外した時に保存しやすくするためにもみを乾燥させる。



20

種類

ベトナムの米



21

もち米 (Gạo nếp)

- もち米にはアミロペクチンが多くあってアミロースは含まれていない。
- 大きくて丸い。
- 成長と収穫の時間が長い。



22

うるち米 (Gạo tẻ)

- 現在一番多く使用されている米の種類だ。



23

玄米 (Gạo lứt)

- 玄米は皮を取り除いて、米ぬか層は除去されていない種類の米だ。
- この米は栄養がとて高い。



24

ベトナムのお米の期間



25

稲作期間

方法：モノカルチャー

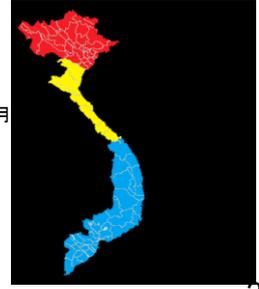
・ベトナムの北部：

二期作がある：2月～6月、7月～10月

・ベトナムの中部と南部：

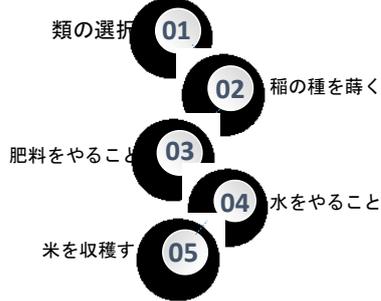
三期作がある：12月～2月、

4月～6月、7月～9月



26

栽培のプロセス



27

日本とベトナムの砂糖

28

砂糖の原料

日本



てん菜

ベトナム



さとうきび

29

砂糖の原料（日本）

てん菜

- ・大根のような見た目だが、ほうれん草の仲間
- ・白い、根の部分が砂糖になる
- ・寒冷な気候を好むため、主にヨーロッパで生産されている



30

てん菜（栽培条件）

温度条件は発芽、生育、糖に影響するため重要。

- ・発芽のために4～30℃必要である 最適温度は25℃
- ・生育中は12.3℃～16.4℃が好ましい
- ・収穫期の夜の気温は10℃以下が適している

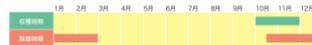
降水量は年間600ミリ程度が理想的である。



31

てん菜の作り方

- ・日本では北海道で作られている。
- ・春先に種をまいて苗を作る。
- ・5月上旬ごろに苗を植える
- ・10～11月に収穫される。
- ・その後、道内の製糖工場加工される。



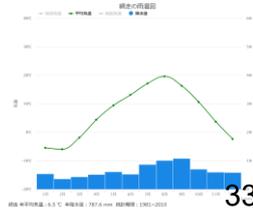
32

北海道の気候はてん菜に適しているか

北海道網走市

- 降水量は年間800mm弱で条件に近い
(年間600mmが理想的)
- 種まきのころ(3月)は平均気温が
-2℃程度で寒い(発芽に4~30℃必要)
- 生育期間(7・8月)の平均気温が
17℃~20℃で高め(12~16℃が理想)

→温度があまり適していないため、
病気が発生しやすい

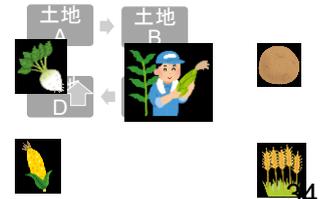


北海道の農業

北海道では「輪作」が行われている
→同じ土地で数年間のサイクルで異なる作物を育てること。

効果

- 病気や虫を防ぐ
- 土壌のバランスを整える
→収穫量の低下を防ぐ



砂糖の原料(ベトナム)

サトウキビ

- イネ科サトウキビ属の植物。
- 熱帯の植物のため高湿度を求め
ている。



35

サトウキビ(栽培条件)

- 平均気温が15度から26度まで。5度以下は
死ぬ。
- 収穫の時期: およそ10ヶ月~15ヶ月かか
る。
- 適当な水量が必要だ。



36

サトウキビの作り方

- サトウキビを収穫するまでは品種や地
域の自然条件などにもよりますが、お
よそ10ヶ月~15ヶ月かかります。
- ベトナムでは12月か1月がその最盛期
です。



37

タインホア県の気候はサトウキビに適しているか

- 3つのサトウキビ工場がある。
- 平均気温が23.4℃程度
- 降水量は年間1600mmで条件に近い



38

結論

39

分かったこと

ヌック・トゥーンとしょうゆなどの日本とベトナムに
似たような調味料があること。

フォーと日本のご飯のように同じ作物でも用途が全く違う食べ物
がある。

逆に砂糖のサトウキビとてんさいのように同じ調味料でも、それを作
る材料が別のものになっていることがあった。

40

結論

日本とベトナムの食事の違いや同じところを比べることで、同じような材料から似たものが作られることもあれば、全く違うものが作られること、またその逆に、違う材料から同じものが作られるということがわかった。その上、同じ作物を育てていても、品種や栽培時期が異なっていることが分かった。その理由として気候や土地の広さなどがかわっていると考えられる。

41

参考文献

[日本のお米の種類と品種の一覧 - いちらん屋 \(一覧屋\) \(ichiranya.com\)](http://ichiranya.com)

[ジャポニカ米 形 - Bing images](#)

[ジャポニカ米 分布 - Bing images](#)

[お米作りの一年の流れと作業内容 | やまむファーム \(ymmfarm.com\)](http://ymmfarm.com)

[ジャポニカ米とは？インディカ米との違いは？日本は米の輸入が増加中！ | お食事ウェブマガジン「グルメノート」 \(gourmet-note.jp\)](#)

[田植え - Bing images](#)

42

参考文献

[てん菜職工場をのぞいてみよう！ \(https://www.tensaito.com/making/\)](https://www.tensaito.com/making/)

[独立行政法人農畜産業振興機構 企画調整部 \(https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000770.html\)](https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000770.html)

[てんさい 北海道開発局 \(https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/chousa/foodscatalog_12.pdf\)](https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/chousa/foodscatalog_12.pdf)

[気温等量の統計 網走市 \(https://weather.time-j.net/Climate/Chart/abashiri\)](https://weather.time-j.net/Climate/Chart/abashiri)

Duong Bich Ngoc (07/2019), Sugar Industry Report July 2019, FPT Securities

Tính nào trồng nhiều mía nhất nước ta (<http://cungok.com/tinh-nao-trong-mia-nhieu-nhat/>)

43



ご清聴ありがとうございました

44

V. 三重大学とホーチミン市師範大学の学生との交流の記録

今回の交流期間中に、リサーチテーマを離れてお互いの身近な話題について交流した記録です。

1. 食事について

- ・ベトナムでは、小魚と塩を漬け込んでできている「ヌクマム」という調味料が重宝されている。
- ・「カンチュア」というスープも一般的である。酸味の強いものがあつたりするなど家庭や地域で味付けが異なる。
- ・豚肉やえび、もやし、米粉、野菜、ヌクマムなどから作ることができるベトナムの代表的な料理でもあるバインセオがおすすめ。
- ・日本では、簡単に味を調整することができる「プッチと鍋」シリーズなどが人気である。
- ・調査中にしょうゆなど調味料について話し合った。

上嶋美琴さんのある日の朝食



ミン・ツーさん

【bún thịt nướng(ブン・ティット・ヌン)】



【チーズタピオカミルクティー】←日本でも少し前まで大人気だったタピオカミルクティーの上にチーズをのせるものが人気なよう。



スエンさん



調味料について触れながらも多くのベトナム料理について紹介して下さった。

リンさん

【バイン・セオ】



材料



小樋健汰さん

【ポン酢】



【しょうゆ】



【ふりかけ】



2. 自分の部屋や家の周り

三重大生の家の周り



3. 自分の家や大学の近くのおすすめの店

- ・ベトナムでは、ヨーグルトタピオカが流行しており、大学の付近にあるショッピングセンターにもあり、人気のお店である。買い物ついでに家族と一緒に飲んだり、カップルで行ったりすることもある。
- ・僕のバイトしているお店が三重大学の近くにある魂心家ではたいているため、そこがおすすめという話をしました。
- ・(三重大学生) 自転車で15分ほどのところにベトナム料理屋がある・歩いて5分ほどのところに回転寿司がある
- ・(ホーチミン師範大学生) 日本料理のお店はいくつかあるが、少し値段が高い

4. 自分の好きな日本のこと・ベトナムのことについて

- ・僕は日本のご飯が好きで、ベトナムのフォーにとっても興味があるということ話をしました
- ・(リンさん) 日本の少女漫画が好き
- ・(フィーさん) 日本の景色が好き

5. その他

【ベトナム人の名前について】

ベトナム人の名前にも、日本人の名前と同様に苗字と名前があり、苗字と名前の間にあるのは、日本人にはないミドルネームのようなもののようなことでした。←〈苗字〉+〈ミドルネームのようなもの〉+〈名前〉

VI. 全体の報告(感想)

ベトナムフィールドスタディを終えて

人文学部文化学科 2年 田村彩英

私がこのプログラムに参加した理由は、毎年ベトナム現地に行って調査をするというプログラムの魅力にひかれたためだ。しかし、コロナの影響でベトナム現地に行くことができず、オンラインでの開催となった。想像していたものと異なる形式で、事前研修もオンライン開催でとても緊張した。事前研修の時、私は日本人相手にすら緊張していたため、文化や言語が違うベトナム人相手にちゃんと話せるかプログラムが始まる日まで不安に感じていた。

そんな不安の中、プログラムがはじまり、私の不安は杞憂だったと感じた。プログラムが始まってみれば、ベトナムの人たちはとてもフレンドリーに話してくれて、フィールド調査にもとても協力的で、意見も積極的に出してくれた。調べものはベトナムのこのことのみならず、日本のことについても一部調べてくれていて、とても驚いた。ベトナムの人たちがとても協力的だったおかげで私のやる気も出た。ベトナムの人たちが頑張っているから自分も頑張らなければと思った。限られた時間の中で調べ、まとめて発表をしなければならなかったが、ベトナムの人たちのおかげで充実した発表が作れたと思う。

ベトナムフィールドスタディを通して、相手にわかりやすく言葉を伝えることの重要性を学んだ。ベトナムの人たちと話し合っていると、私たちの言葉が難しかったのか、ベトナムの人たち同士で話し合ってから返答があったことや、間違った伝わり方をしたことがあった。そのため、わかっていなさそうな雰囲気があれば、表現を変えて伝えるなどの工夫を行った。難しい言葉の羅列は自分の知性を象徴するものになることもあるが、それで言いたいことが相手に伝わらなければ本末転倒である。相手が理解できる単語を選んで伝えることが大切だと改めて感じた。

ベトナム語や日本語を教え合う時間は、音声聞き取りづらいことがあったが、チャット機能を使いながら行うことで、音声情報と文字情報を同時に見ることができたため、とてもためになる時間だったと思う。会話を楽しみながら言語を学ぶことができたため、楽しく勉強するという感覚を味わえた。

また、オンライン開催ということを残念に思ったが、利点もあると感じた。現地の空気を肌で感じるができない点やラグが発生する点がデメリットだが、お金をかけずに気軽にベトナム人と関わることができた点、日本の様子やベトナムの様子を見せあって、ベトナムの人たちに日本がどんなものか見せることもできた。気軽にお互いの文化の違いを知ることができる点がメリットだったと思う。

このベトナムフィールドスタディは、イレギュラーな点多かったが、その分臨機応変に対応するという力が身につく、オンラインという場面で工夫していく力も身についたと私は思う。

2021年3月8日から12日にかけて行われたベトナムフィールドスタディに参加して、経験したこと・考えたこと・感じたことについていくつか述べていきたいと思います。

①事前研修

ベトナムフィールドスタディに参加することを決めた当時は、その時期になれば、コロナウイルスの影響は小さくなり、現地に行けるのだろうと楽観視していましたが、状況は良くなるどころか悪化するばかりで、現地に行くことができないことが分かった時は、落胆というよりも納得する気持ちの方が強かったと覚えています。そんな状況の中一度は参加を辞退しようということも考えましたが、奥田先生や松岡先生、伊藤さんなどの多くの方が調整などをしてくださっていることをみて、現地に行くことができなくとも今後に生かすことができる経験を得ることができるのではないかと考え、事前研修に参加させて頂きました。ベトナムの概要に始まり、文化、言語などを知っていくうちにもっと知ってみたいという気持ちが強くなると同時に、現地の学生と交流したという気持ちも強くなりました。この点で事前研修は、私にとってベトナムについて理解する機会でもあり、参加を決定づける良い機会になったと思います。しかし、オンラインでの会話となると、日本語でさえ時々聞き取ることができないにもかかわらず、慣れていないベトナム語を聞き取ろうとすることはとても難しいと感じました。やはり発音・リスニングを練習するにはより良い環境を用意しないと言語の習得を困難であると改めて感じました。

②開講式・修了式

当初は二人で分担して司会する予定であった開講式では、大学の実習の関係でもう一人の方が参加できなくなってしまい、一人で担当することになりましたが、次は誰が話すのかなどを考えなくてもよくなった点では、やりやすくなったかと思いました。しかし、一人でやることには多少の不安がありました。とはいえ何とか進めることができたので良かったかと思います。反省点としては、ベトナム学生の名前をもう少しうまく紹介できるようにお聞きするか、調べておくべきだったということと、もう少し臨機応変に司会を上手く修正出来たらよかったということが挙げられます。

修了式に関しては、もう一人の方がうまく司会の分担をしてくださったので、特に心配はなく挑むことができました。しかし、パワーポイントの共有や原稿の切り替え等で手間取り、スムーズにいくことができない場面があったので、事前に上手く切り替えることができるように準備しておくべきだったと反省しています。

③フィールド調査・話し合い

事後アンケートにも記載しましたが、まず初めに感じたことはベトナム学生や私の接続状況が悪い場面が多々あり、会話が困難でした。また、日本語で上手く表現できない場合に、身振り手振りで表現しようとしても、なかなかオンラインの画面上でそれを表現することが困難である場合もあり苦労しました。しかし、全体的にベトナム学生の日本語能力の高さに驚き、通信環境等を考えなければ、会話(議論)をする上で特に支障はありませんでした。私が英語などの外国語で今回のような議論ができるかといわれれば、自身がないため、刺激をうけ、今後挑戦してみたいと思いました。

一緒に調査・発表会に向けて準備をしていく中で、印象に残ったことを二つ紹介したいと思います。一つ目は留学生と話している時も感じますが、それぞれの学生がそれぞれ自分自身の考えを持っており、自分が違うと思った場合には、「違うと思う」や「これはやりたくない」ということをはっきり伝えてくれることです。日本においては多少気に入らない部分があっても、妥協したり、同調したりと自分の意見をはっきり言わない場面もあり、私としてはとても刺激を受けました。二つ目に、オンラインでの参加方法についてとても驚きました。ベトナムの学生は、大学から参加している人はもちろんいますが、カフェ

から、映画館から、大学の食堂から、と自分の好きなところから参加しており、日本の大学生のように家で静かに一人で講義を受けていることと大きく異なると感じました。また、一人1デバイスではなく共有して参加することも驚きました(二人が一つの画面にいたので、画面に表示されている名前の学生がどちらかわからないということが、思った以上に厄介だと感じました)。これらのことも含めとても面白い話し合いや調査ができたと思います。

④発表準備・発表当日

当初想定していたものとは少し異なった内容にはなったものの、初めから内容は一貫しており、準備に至るまでにしっかりと調査と話し合いをすることができたと思います。その話し合いを終え、資料作成に移ろうとしたときに、正直なところ一人くらいは期限までに自分の担当をやってくれない又はやることができないという状況が起きて、上手く準備できないのではないかと心配していましたが、外国語の日本語での発表にも関わらず、ベトナムの学生は、しっかりと準備をしてくださり練習・リハーサルの時間もしっかりと確保することができました。またグループの日本人学生は、話し合いの進行からリハーサルの進行までとてもスムーズに進めてくれたので、ストレスなく発表準備を進めることができました。もう少し時間があれば、発表の内容に加え、新たな教育の検討まで進めてみたいと思いましたが、今回はなかなかそこまで到達することができなかったため、今後そのような機会があれば挑戦してみたいと思います。

当日も、リハーサル通りの発表が出来良かったとは思いますが、もう少し内容を絞って聞いてくださる方の興味を集めることができたなら良かったかとも思いました。

⑤全体を通して

初めての試みで私自身上手くやっていくことができるのか心配でしたが、先生方のおかげで何とかやりきることができました。今回は現地に行くことができませんでしたが、もし次回に参加することができるのであれば、ぜひ参加させて頂きベトナム現地で学生と交流できることを願っています。今回はこのような機会を用意していただきありがとうございました。

ベトナムフィールドスタディ 報告書

教育学部 学校教育コース1年 上嶋美琴

2020年度のベトナムフィールドスタディは、3月8日から12日の5日間の期間を通して行われた。

ベトナムフィールドスタディが行われる3ヶ月ほど前から事前研修など準備を進め、実際にベトナムに出向くことができると楽しみにしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まり渡航するという願いが叶わず、オンラインで開催されることとなった。私自身、ベトナムに実際に行けることを期待していたので、オンラインで開催されることになったときは、参加するかどうか正直悩んだが、国際交流に興味があったことや、たとえオンラインでも実際にオフラインでベトナムに行ける時代になった時につながる機会であると考えたため参加を決めた。

しかし、オンラインでのベトナムフィールドスタディは今回が初めてということもあり、どのような交流になるのかなど、うまくコミュニケーションをとることができるのかという不安が大きくあった。

ベトナムフィールドスタディ当日の1日目は開講式と、グループにわかれ、フィールド調査の準備が行われた。この時、フィールド調査をするメンバーとはじめて顔合わせをした。ベトナムのホーチミン市師範大学生が4名と三重大学の学生が私を含め2名で、計6名のグループであった。ベトナムの学生は、私が想像していた何倍も日本語が流暢で自己紹介もお互い日本語でおこなった。オンラインでありながらも緊張していた私にとって、日本語がとても上手で、笑顔で話を聞いてくれるベトナムの学生は、私の気持ちを軽くさせてくれた。

2日目、3日目、4日目は、はじめにブレインストーミングをおこなった。日本語とベトナム語での挨拶や自己紹介の仕方を教えあったり、ことわざや擬音語・擬態語を共有したりした。このときのメンバーはフィールド調査のメンバーとは違うメンバーであったため、多くのベトナムの学生と交流することができた。ことわざは、日本とベトナムで同じような意味を持ったものがいくつかあり、そのようなものを発見し合えることも面白かった。擬音語や擬態語に関しても同じものがあり、言語自体は全く違っても同じ言葉が出てきたときは新鮮な気持ちになった。

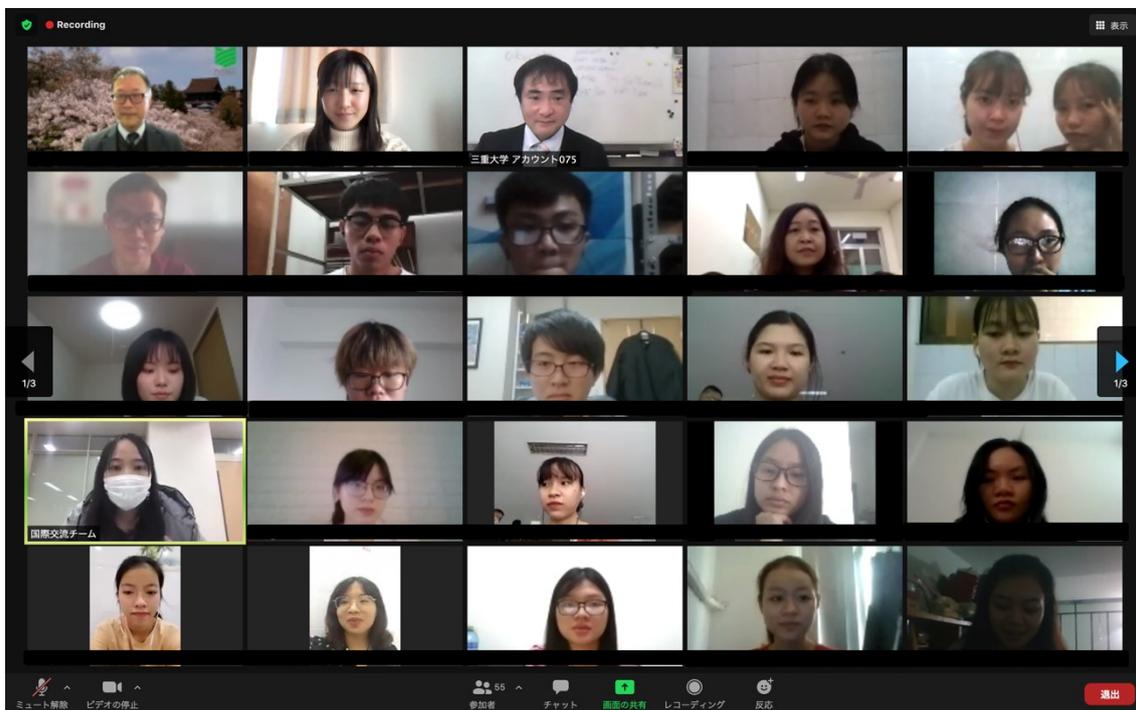
また、フィールド調査では、私たちのグループでは「教育」に視点をおいて比較をおこなった。私自身、教育学部ということもあり、日本以外の教育についても現地の学生から話を伺いたいと思っていたので、多くの話を聴くことができ貴重な経験となった。また、改めて日本の教育を見つめることができ、私たちの「当たり前」と感じていることも他国の人から見たら、そうでないことも多くあることが分かった。ベトナムの教育は日本とは異なり小学生の頃から政治についての知識をつけていたり、学校によっては午前と午後に分かれている2部制であったりと、日本と異なる点が多くあった。このフィールド調査を通して、お互いの国の「教育」に関しての情報を共有することができた。その共有できたものを全体発表でどのように発表するかということの検討に時間を要した。多くの異なる点をどのようにまとめて発表するか、どのくらいの時間をかけてどのくらいの情報を言うべきかなど、グループ全員で協力しながら、オンライン上でひとつのスライドを用いながら作成した。

最終日には、日本文化紹介と最終発表をおこなった。日本文化紹介では、私は日本の年中行事について発表をした。この発表をするにあたっての準備の段階で日本の年中行事について色々調べた。その際に、今まで知らなかった意味が多く日本の年中行事にはあり、改めて見てみると、非常に素敵であると感じた。これを機に日本のことが尚更喜欢きになったようにも感じた。フィールド調査の最終発表ではそれまでのグループで協力した成果を出すことができたものであったと思う。発表までの準備で大変な面もあったが、最後に発表が無事にできたことで、達成感も大きかった。また、もう一つのグループの「農業」に関する発表も分かりやすく日本とベトナムが比較されており、聞いていて非常に勉強になった。

この5日間を通して多くのことを学ぶことができたと思う。もちろん、フィールド調査を通して日本とベトナムの教育の違いを知ることができたという点もあるが、それ以外にも、オンライン上でも国際交流ができること、日本の当たり前は他国

から見た時には当たり前ではないことや、ベトナムの学生から現地の話を聞くことでベトナムの魅力などが分かった。また改めて、自国である日本の魅力も感じる事ができた。開催前はオンライン上で開催されることに少なからず抵抗を感じていたが、参加したことで得ることができたものも多くあったので、参加できて良かったと思う。機会があれば、今回オンラインを通して交流したベトナムの学生と実際に会いたいと思う。

最後となりましたが、このような状況下で2020年度ベトナムフィールドスタディを「中止」ではなく、「オンライン開催」というかたちでおこなっていただいた奥田先生・松岡先生をはじめベトナムフィールドスタディを通してお世話になったホーチミン師範大学の皆様、ベトナムフィールドスタディに関わってくださった全ての皆様に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



全体の感想

生物資源学部共生環境学科 2 年 住田大聖

ベトナムフィールドスタディのプログラムの中でベトナムの学生と話している時に大変だと感じることや、意外に感じることも、印象に残るようなシーンが多かったです。

ベトナムフィールドスタディを行っていく中で日本人とベトナムの学生が受け取る言葉の感じ方の違いや、言葉の解釈の違いがベトナムの学生とパワーポイントを作っていく中で感じる事ができました。また、それ以外の部分でも日本とベトナムの文化の違いを知ることができました。相手に伝える力、相手を理解する力などが鍛わり、とてもいい経験ができました。

僕たちの班は田村さんのテーマがもう一つの班と同じになってしまうため、田村さんの予定していたテーマを変えて僕のテーマと同じ農業にしました。その旨をベトナムの学生に伝える時に、ベトナムの学生が本当に変えていいのかと困惑させないよう、先生がおっしゃっていたことを伝える時はわかりやすい言葉で伝わりやすいように話したことが印象に残っています。

また、発表するテーマが決まり、内容を決める話し合いを進めていく中で、僕たちは日本のお米がそのまま炊かれるのに対し、ベトナムのお米は一度、米粉にされフォーにされることや、日本とベトナムの同じ砂糖でも、原材料が違うことに気づきました。なので、気づいたことを活かして、原材料や加工後の食品の違いを調べることで、日本とベトナムの農業の違いについてという結論につなげようと思いました。調べた結果では育成方法に多少の違いはありましたが、ほとんどの違いは農作物の種類の違いや気候の違いでした。僕と田村さんはこの違いを農業の違いととらえており、ベトナムの学生はこの違いを農業の違いととらえることができていませんでした。どこが農業の違いなのかという話し合いを、スライドを作っている間にしており、農業の違いがどのようにあるのかをどのように説明していいかわからずとても困惑した印象が残っています。

このような言葉の解釈の違いは、日本人の持つ農業のイメージが気候やの作物の種類の違いなども内包していることに対し、ベトナムの学生は農業という日本語に気候などの意味を内包しておらず、作物を育てるというイメージのみを持っているから起きたものだと考えました。

他にも、大変だと感じることや、言葉のすれ違い以外にも時間の感覚など印象に残ることがありました。

僕たちの班は基本的に日本時間の 3 時に集まり、5 時に終了するという予定を組んでいました。開始時には全員集まり始まるのですが、終わる時間になると、どれだけ作業が途中になっても解散するということがとても印象に残っています。あと 5 分や 10 分程度で作業が終わるような場面でも、共有をしているパワーポイントに明日までに書き込んでおきましょうと解散してしまうことに日本人と作業することの違いを感じました。

家ではなくカフェで集まってフィールドスタディに参加することや、フィールドスタディが始まってから新しく参加することにも驚きました。二つともあまり日本では行われなようなことであり、カフェでは雑音が入ってしまうこともありますが、カフェで他のフィールドスタディの参加者にも聞こえるほどの声量でしゃべれることにも驚きました。また、このようなプログラムに遅れて参加するというのは日本ではあまり認めてもらえないように感じており、様々な場面で日本との文化や考えの違いに触れることができました。

フィールドスタディを行っていくことで、相手の話をよく聞き理解しようとする力や、相手に理解をさせるために言葉をかみ砕いて分かりやすく説明する力のようなコミュニケーション力が鍛えられるとてもいい経験をする事ができました。

交流の様子



三 重 大 学 国 際 交 流 セ ン タ ー

修 了 証 書

所 属 三 重 大 学 〇〇 学 部

氏 名 〇〇

生 年 月 日 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

上記の者は三重大学国際交流センター主催のベトナムフィールドスタディ 2020(令和 3 年 3 月 8 日~3 月 12 日)に参加し、所定のプログラムを修了したことを証する。

2021 年 3 月 12 日

三重大学国際交流センター長



吉松 隆夫
COPY
S. Yoshimatsu

おわりに

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、残念ながらフィールドスタディ2019が実施できませんでした。今年度も状況は好転せず、また、直前になってからホーチミン市師範大学も急遽オンライン授業になったりしたため、一時はフィールドスタディの実施が危ぶまれました。しかし、Chi 学科長や Nga 先生のご指導、そして学生の皆さんの熱意により、最終的には zoom を使ったオンライン交流が可能となりました。本学からは最終的に 4 名の学生が、ホーチミン市師範大学からは 9 名の学生がオンラインでのフィールドスタディに参加しました。日程も、これまでの半分の 5 日間（午後のみ）という短いものでしたが、限られた環境と時間の中で、有意義な交流になったと思います。

今回、オンライン交流になったことから、過去の VFS で実施してきた多くの活動ができなくなってしまいました。まだ寒い日本とは対照的な現地の熱気を感じながら、直接顔と顔を合わせて交流することができない中で、果たしてどれだけの交流ができるのかという不安もありました。現地訪問できれば、すぐに打ち解けて親しくなれることは分かっていたのですが、今回はオンラインであったため、こちらでいくつかのきっかけを作る必要があると考えました。そこで、例年にはなかった「日越ことわざ・オノマトペ比較」や「大学生のアルバイトについてのディスカッション」、さらにお互いの食事や住環境などを紹介し合うような活動を追加しました。これまで当たり前だと思っていたことや、深く考えたことがなかったようなことでも、ベトナムの学生と話し合うことで、改めて考え直してもらえるきっかけになればと思いました。

このように、これまでのベトナムフィールドスタディとはさまざまな点において異なりましたが、両学の学生が工夫しながらコミュニケーションをし、双方に対する理解と関心がより深まったという点においては、これまでと変わらないと思います。今回は、直接訪問できませんでしたが、近い将来、お互いに訪問し合い、直接交流できる日が来ることを願っています。

(松岡知津子)